

サンクチュアリ教会を支持する人々の言説の誤り (13)

サンクチュアリ教会は、真のお父様のみ言と伝統が真のお母様によって覆されていると主張し、お母様のなさることをことごとく否定しています。それらの主張は、お父様がお母様と共に立ててこられた勝利圏を否定するものであり、真の父母様を中心とする統一家の一体化を損ねるものです。以下、サンクチュアリ教会を支持する人々の言説の誤りを指摘します。

なお、彼らの言説の誤りを総合的に理解し把握するためには、「真の父母様宣布文サイト (<http://trueparents.jp/>)」の掲載文や映像をごらんください。

注本文中、真の父母様のみ言や「原理講論」等は「青色」で、サンクチュアリ教会側の主張は「茶色」で色分けしています。

【26】分派のみ言改竄に要注意

①「お母様は堕落の血統をもって生まれた」という主張について
文亨進様は説教で、二〇〇三年十月二日の真のお父様のみ言を引用し、「皆さんはサタンの教会へ通っています。サタンの教会！お父様のみ言ではつきり語っていました。『真のお母様は堕落した天使長の血統から来ました』と述べ、家庭連合を批判しております。

このみ言引用は、悪意がある

と言わざるをえません。正確なみ言は、次のようになります。

「お母様も堕落した天使長の血統を受けた人です。先生までもそうです、先生までも。ですから、絶対信仰、絶対愛、絶対服従で再創造しなければなりません」(マルスム選集、四一九一〇二) (以下、同様の漢数字表記はマルスム選集から)

真のお父様は、「お母様も堕落した天使長の血統を受けた人です」に続いて「先生までもそうです」

と語っておられます。にもかかわらず「先生までもそうです」を省略し、真のお母様だけがそうであるかのように引用します。お父様はイエス様についても次のように語っておられます。

「アダムは神の独り子でした。

……神が直接つくった絶対なる独り子でした。エバもそうです。……独り子のイエス様と堕落する前の独り子とはどちらが貴いのですか？ 堕落しなかった場合には、アダムですか、イエス様ですか？ (アダムです)。どうしてですか？ アダムは神からつくられました。イエス様は堕落した後孫の女から生まれてきたのです。キリスト教はこれを知らなければなりません。数千代の汚れた血統を条件的基盤に植えつけて、それを条件的な立場によって独り子として生まれたように認められたのです」(『本郷』三三〇―三三二ページ)

真のお父様は、マタイによる

福音書第一章の系図にあるように「イエス様は堕落した後孫の女から生まれてきた」と語っておられます。「お母様も堕落した天使長の血統を受けた人です。先生までもそうです」というみ言は、イエス様について語られたみ言と同じ主旨で語っておられるものです。亨進様のみ言引用には、問題あり、と言わざるをえません。

他にも、み言引用において注意しなければならぬ点があります。それは翻訳の問題です。サンクチュアリ教会や郭グループに立つ日本人メンバーが、真のお母様批判のために引用する彼らの日本語訳のみ言には、以下のようなものがあります。

「皆さん、オモニは生まれながらに王女のように生まれ、オモニのように再臨主の妻として生まれましたと思いませんか？ 言ってみなさい。堕落した血統をもって生まれました」(四六一―二六、

二〇〇四年七月十九日)

彼らは「堕落した血統をもって」と翻訳することで、いかにもお母様は原罪を持って生まれておられるかのように印象づけるようとしています。しかし、原文は「타락한 핏줄을 받고 태어났어오」であり、「もって」と翻訳した「받고」は、「受けて」と翻訳すべき言葉です。したがって、「堕落した血統を受けて生まれました」になります。

これは、前述の「お母様も堕落した天使長の血統を受けた人です。先生までもそうです」というみ言の「受けた」と同じ意味合いとして理解すべきものです。

ところが、サンクチュアリ教会や郭グループの人は、「堕落した血統をもって生まれました」と変えて翻訳することで、私たちがを誤導しようとしています。私たちは、真のお父様が次のようにみ言を語っておられることにも留意すべきです。

「人間自体の主人として来る再臨主もサタンの血統に乗ってきたのです」(四四四―一九七、二〇〇四年四月四日)

「先生も神様の堕落していない父母の血肉を通して現れたのではありません。……その中からどのようにして真の父母が現れることができるのでしょうか」(四八―四八、二〇〇五年一月二日)

これらのみ言は、ほぼ同じ年代において語られており、同じ脈絡のみ言として理解すべきものと言えるでしょう。結局、「받고」(受けて)というのには、真のお父様も真のお母様もイエス様も、同じように「堕落の血統」の中、から生まれてきたという意味にほかなりません。

②「父子協助時代」のみ言改竄

サンクチュアリ教会の人は「父子協助時代」のみ言を悪用し、「撰理の流れから見ても、一九九二年から一九九九年までは『女性

の時代』であり、『真のお母様』を中心とした撰理です。……しかし、二〇〇〇年からは『父子協助時代』に入りました。お父様は、二〇〇〇年一月五日のみ言で、『国家時代を越えて、アボジを中心に関連された時、オモニではありません。これで一つになると、オモニは長子に任せるので父子協助時代になるのです。父子協助時代になると、ここで全て終わるのです』(三二四―三三〇)と語っておられ、お母様を中心とする時代は終わり、今や亨進様を中心とする時代が来ている」などと主張します。(この部分の翻訳の問題については後述)

しかし一九九九年の「九・九節」のみ言、および二〇〇〇年十一月十一日にハワイで宣布された「父子協助時代」のみ言は、真のお父様が母の国日本を救うための措置として宣布されたもので、真のお母様について語られたものではありません。

一九九九年、本来なら日本で

「祝福結婚式」を挙行すべきでしたが、それができなかったとき、真のお父様は「父子協助時代」を宣布され、日本の救済措置をうに語っておられます。

「米国が、日本よりも先立つようにしようと思えます。長子が、エバよりもさらに悪いのです。……エバが堕落したあと、実を結んだのが長子なので、長子である米国を通してエバがついていけば、韓国に来やすいというのです。……今後、皆さんが責任を果たせなくなれば、米国についてきなさいというのです。そのため、先生が、すでに母子協助時代を否定してしまい、父子協助時代を宣布しました。なぜでしょうか。日本を放り出しても、父子協助時代において息子についていき、母がいなくても、父と息子が一つになれば、母はどこでも、いつでも求めることができるというのです。

孝律は知っていますか？

「はい」どこに行つて、父子協

時代を発表しましたか。どの島
で？「ハワイにあるカウアイ島
です……」日本語で、カウアイ島
です、カウアイ島。その島に行っ
て、父子協助時代を宣布しまし
た。……（日本は）長子の世界を、
減ぼしてしまおうとしたでしょ
う。それを直して、それ以上のも
のをつくつて男を前に立てなけ
れば、復帰される母の道がないと
見るので、そのような危険性があ
るので、先生が、母子協助時代を
通り過ぎて、父子協助時代を、す
でにハワイのカウアイの地を中心
として宣布したのです」（四五二
二二六、二〇〇四年五月二十九日）

このように、真のお父様は「母
子協助時代」「父子協助時代」
について語られるとき、明確に、
母の国としての日本を念頭に置
かれていたのです。

以下、「父子協助時代」に関す
る分派側の「問題あり」の翻訳
を指摘します。ある人物のプロ

グは次のように翻訳します。

「今までの復帰歴史において母
子が協助して来ましたが、その
母子協助時代が過ぎたのです。
蕩滅の歴史は母子、オモニと息
子娘が犠牲となって復帰しまし
たが、九・九節を宣布して南北
統一が成される運勢圏に入り、
統一される日には父子協助時代
に入るのです。オモニはいくら
もかまいません。オモニはいくら
でも探し立てることができません」
（三〇三二二六四）

原文は次のようになります。

「米国は大使長国家であり、韓
国はアダム国家ですが、父と息
子が一つにならねばなりません。
分かりましたか。今までの復帰
歴史においては母子が協助して
きたのですが、その母子協助の
時代が過ぎていくのです。蕩滅
の歴史は母子、母と息子、娘が
犠牲になって復帰しましたが、
『九・九節』を宣布し、南北が統

一される運勢に入つて統一され

れば、父子協助の時代に入るの
です。母はいくらでも探して
母はいくらでも探し立てること
ができます。……日本が今まで
責任を果たせなかったため、韓
国に接ぎ木してきました。韓国
の大統領と米国の大統領も一つに
なるというのです。それが一つに
なつてこそ、金正日が消化され
うるのです」

このブログは、母の国日本を
指して語られている「어머니
（母）」をそのまま「オモニ」と
翻訳することで、あたかも真の
お母様について語っているかのよ
うに思わせます。しかし、ここ
で言う「母」はエバ国家について
語っているものです。真のお父様
は日本の代わりにカナダやフィ
リピン等をお考えになったこと
がありました。

また、同ブログは前述の二〇
〇四年五月二十九日のみ言を次
のように翻訳します。

語っていることを隠蔽したうえで、
「オモニがいなくても」とするこ
とで、真のお母様がいなくても
いいという意味に読めるようみ
言を改竄します。

次の翻訳も悪質です。

「文総裁につながれば生きるの
です。地獄を撤廃して神様王権
即位式を行わなければなりません。
『母子協助時代と父子協助時
代は根本的に違うものです。父
子協助時代、生命の種を抱いて
育てようとする女性は、夫に対
して絶対服従しなければならな
いのです』」（三四〇一四二）

『』でくくった部分は、真の
お父様がハワイで日本救済のた
めに「父子協助時代」を宣布し
たみ言の訓読箇所です。その訓
読前、お父様が語られた内容と
訓読部分を組み合わせ、意図的
にみ言を作り変えています。

さらに次のような悪意のある
翻訳をします。

「国時代を越えて、アボジを中
心に連結された時、オモニでは
ありません。これで一つになると、
オモニは長子に任せるので父子
協助時代になるのです。父子協
助時代になると、ここで全て終
わるのです」（三二四一三三〇）

このみ言は、真のお父様が各
家庭の母親について語った内容
であり、「オモニ」は各家庭の母
親であり、「アボジ」は各家庭の
父親のことです。つまり、お父
様は家庭的四位基台復帰の話と
して、カイン・アベルを母親が母
子協助で収拾したなら、父親が
正しい位置に立つので母子協助
時代が終わつて父子協助時代に
なると話しておられます。それ
を「オモニ」とすることで真のお

母様のことを語っているかのよう
に思わせます。この人物は何を
目的として、このような数々の
改竄行為をするのでしょうか？
お母様をおとしめることで、統

一家の一体化をさせないよう分裂
をもくろんでいるかのようです。

真のお父様は、「父子協助時代」
になったので真のお母様は必要
ないと語られたことはありません。
『原理講論』に、「父は一人どう
して子女を生むことができるだ
ろうか。墮落した子女を、善の
子女として、新たに生み直して
くださるためには、真の父と共に、
真の母がいなければならぬ」（二
六四～二六五ページ）とあるよ
うに、真の母は絶対に必要です。
今や、家庭連合時代になりました
が、お父様は「世界平和家庭
連合時代の開幕宣布」で次のよ
うにみ言を語っておられます。

『歴史以来、長子と次子が一つ
になつて、母親を天のように侍
るといふ伝統を立てることがで
きなかったのです。本然の母親
が現れなかったからです。今は
本然の母親が、長子権復帰と父
母権復帰をして、母親復帰圏に
入つたので、母親を中心として
見るとき、長子と次子は母親の

「先生がすでに母子協助時代を

否定し、父子協助時代を宣布し
ました。なぜ？（中略）父子協
助時代に息子に従つて、オモニが
いなくても、父と息子がひとつ
になれば、オモニはどこからでも
いつでも連れて来ることができ
るというのです。孝律には分かる
でしょうか？」（四五二二三七）

しかし、先ほど示した二〇〇
四年五月二十九日のみ言から、
中略としている箇所の前後を照
合すると、次のようになっている
ことが分かります。

「……父子協助時代を宣布しま
した。なぜでしょうか。日本を放
り出しても、父子協助時代にお
いて息子についていき、母がいなく
ても、父と息子が一つになれば、
母はどこでも、いつでも求めるこ
とができるというのです……」

このブログは、「日本を放り出
しても」を中略し、日本について

名のもとに絶対服従しなければ
ならないのです。服従するよう
になれば父と連結します。父の
代を引き継がなければなりません。
……母の伝統を受け継ぎ、父母
の伝統を受け継いで代表となる
のが長子であり、長子と長子の
伝統を受け継ぐのが次子なの
です。それゆえ、父の命令に対し
て母が絶対服従し、母の命令に
長子が絶対服従し、長子の命令
に弟が絶対服従しなければなら
ないのです。……そのような家
庭にならずしては、神様に侍る
家庭にはなれないのです。これ
が原理的な総観です」（『主要儀
式と宣布式Ⅲ』一五一ページ）

神様に侍る家庭となるには、
子女（カイン・アベル）は母の命
令に絶対服従しなければならな
いと語っておられます。これが
「原理的な総観」であるというの
です。真の父母様に侍り、真の
父母様と一つになることが信仰の
生命線です。